

## 第Ⅵ章 地域まちづくり構想

### 1 地域まちづくり構想と見直しについて

### 2 地域まちづくり構想

- ① 幌向地域
- ② 上幌向地域
- ③ 中央・東部・南部・西部地域
- ④ 若松・北・北盛地域
- ⑤ 利根別・日の出台・東・新東町地域
- ⑥ 宮の下・春日・鳩が丘・日の出・緑が丘地域
- ⑦ 美園・駒園・南町・志文地域
- ⑧ 栗沢地域

## 1 地域まちづくり構想と見直しについて

岩見沢市都市計画マスタープランでは、市街地を生活圏、地理的な状況及び町内会の区分に基づいて8つの地域に区分し、地域ごとのまちづくりに関わる現状と課題、地域からの意見などを踏まえて、地域ごとにまちづくりの目標像と取組の方針を定めた地域まちづくり構想を定めています。

地域まちづくり構想の見直しにあたっては、これまでの取組の進捗と人口の減少や高齢化の進行、地域ごとの都市づくりの動きなどを踏まえた今後の課題、当初策定時のワークショップでの意見と今回、地域ごとに開催した地域別説明会での意見を踏まえて、見直しを行いました。

地域まちづくりの目標像については、そのまま据え置くこととし、地域まちづくりの方針については、上記のとおり、地域ごとの課題を踏まえ、必要な取組を位置づけるよう見直しました。

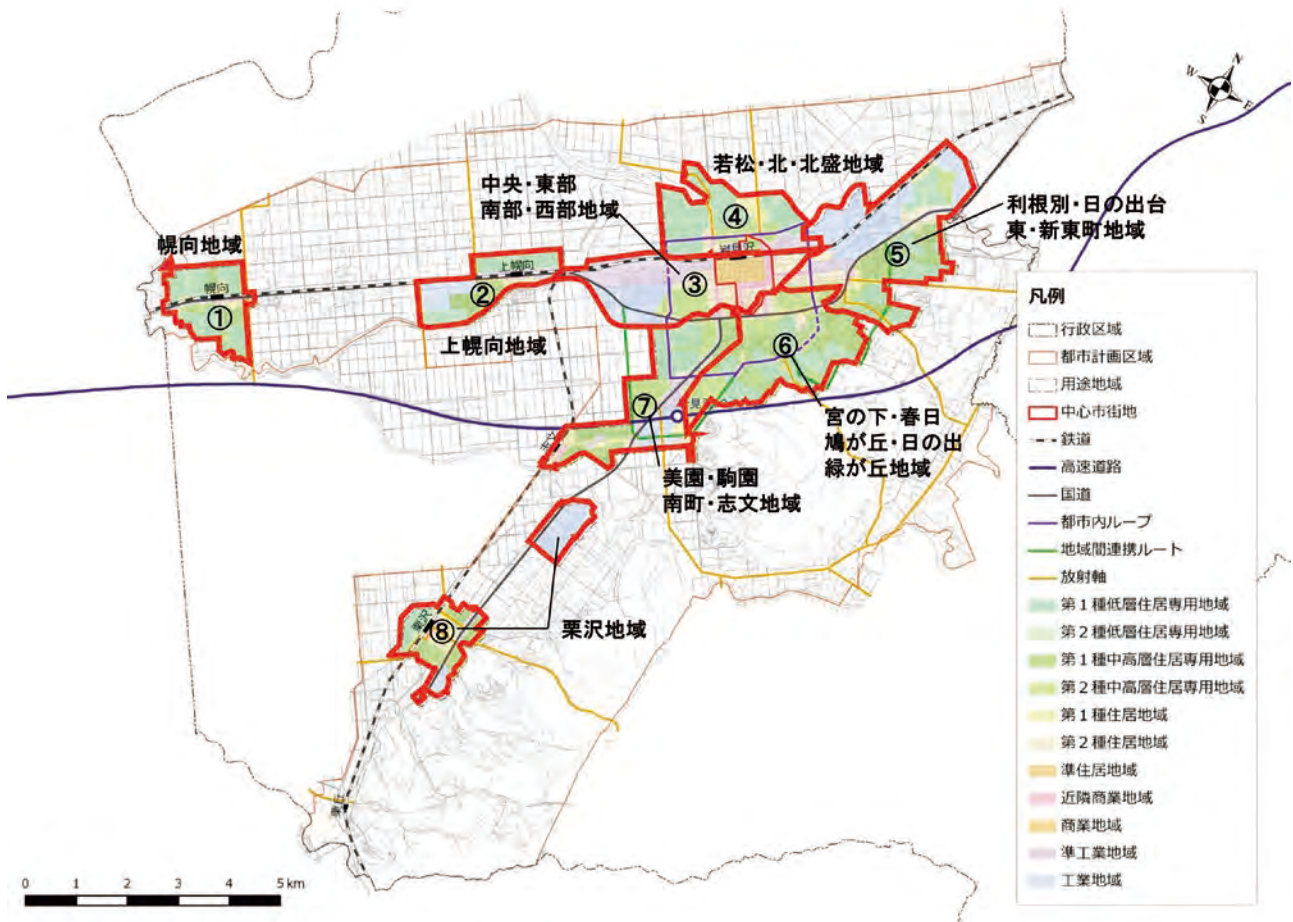


図 6-1-1 地域の区分



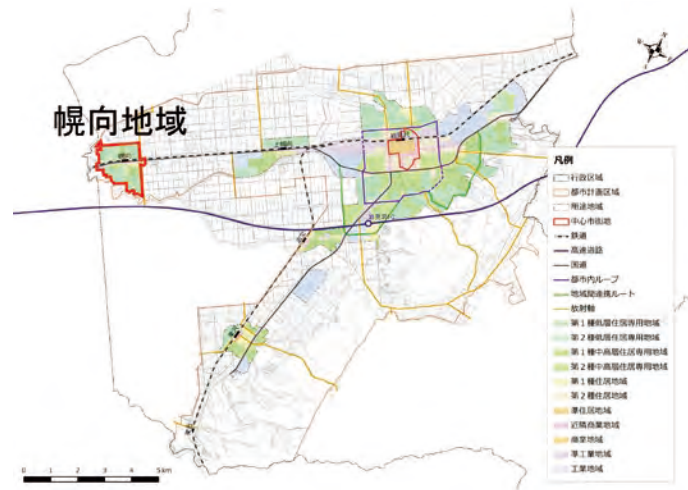
表 6-1-1 地域名と主な地域

地域名	主な地域
①幌向地域 (JR 幌向駅周辺の地域)	幌向北・南条丁目、幌向町
②上幌向地域 (JR 上幌向駅周辺の地域)	上幌向北・南条丁目、御茶の水、双葉町、上幌向町
③中央・東部・南部・西部地域 (JR 岩見沢駅の南側の鉄道と国道 12 号にはさまれた地域)	大和条丁目、大和町、西条丁目
④若松・北・北盛地域 (JR 岩見沢駅の北側の地域)	若松町、北条丁目、有明町、緑町、桜木町、北本町、元町、稔町
⑤利根別・日の出・東・新東町地域 (岩見沢市街地南部の国道 12 号と利根別自然休養林にはさまれた地域)	東条丁目、栄町、東町条丁目、東町、日の出
⑥宮の下・春日・鳩が丘・日の出・緑が丘地域 (岩見沢市街地東部の地域)	西・東条丁目、春日町、鳩が丘、日の出、緑が丘、東山町、かえで町、若駒、並木町、志文町
⑦美園・駒園・南町・志文地域 (岩見沢市街地南西部の国道 234 号沿いの地域)	美園、駒園、南町、志文
⑧栗沢地域 (JR 栗沢駅周辺と国道 234 号沿いの地域)	栗沢町

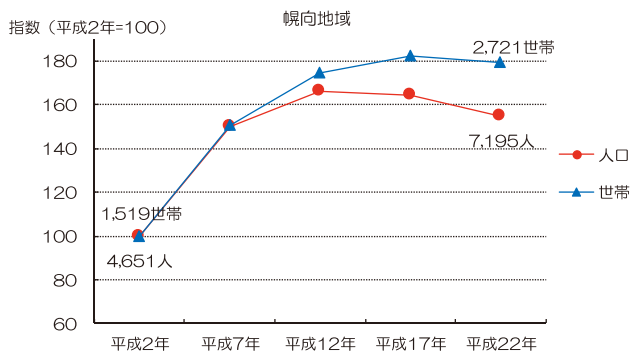
## 2 地域まちづくり構想

### ① 幌向地域

#### 地域の位置



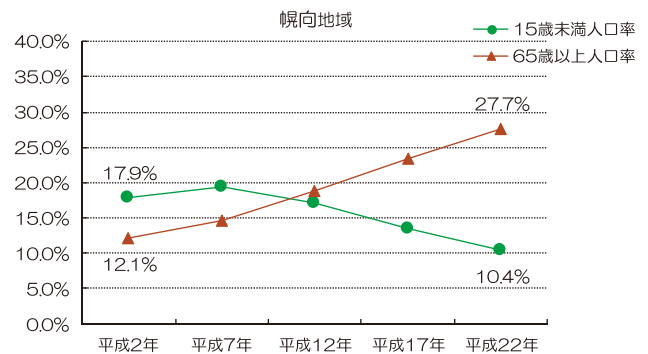
#### 人口・世帯数の推移



人口は、平成12年まで急激に増加し、その後減少に転じています。

世帯数は、平成17年まで急激に増加し、微減しています。

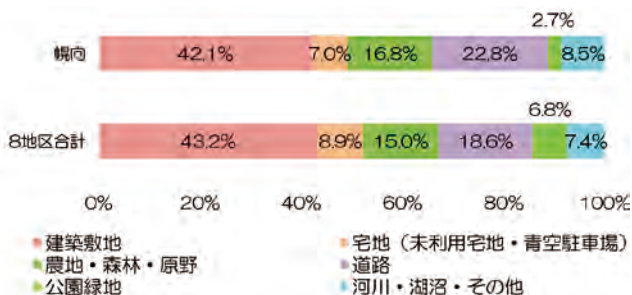
#### 若年人口・老年人口の推移



若年人口の割合は、平成7年以降減少しています。

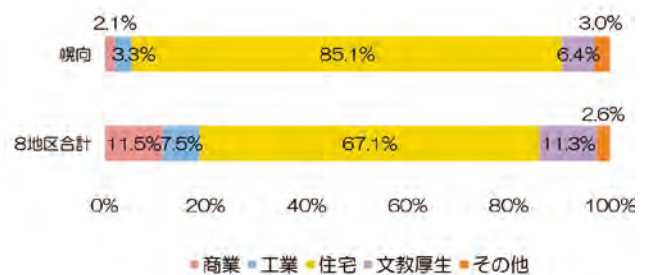
老年人口の割合は、一定の割合で増加しており、高齢化率は他地区と比較して高い状況にあります。

#### 土地利用状況



道路が占める割合が多く、道路密度が比較的高いことが特徴です。

#### 建物用途状況



建物用途では、住宅の割合がほとんどを占めています。



## 2 地域まちづくり構想

### ① 幌向地域

#### 地域まちづくりの目標像

##### 心豊かで住みやすい西の玄関口 ほろむい

石狩川、幌向川沿いをはじめとした豊かな自然環境と住民の活発なコミュニティ活動を通じて、誰もが心豊かに住みやすい地域として、また、札幌市の東のベットタウンとしてではなく、歴史・文化を大切にする故郷意識を持った岩見沢市民が住む「西の玄関口」としての目標像を定めます。

#### 地域まちづくりの方針

##### 都市構造・都市空間

- ・ 幌向地域は、急速に人口が増加した後、人口の減少と高齢化が進んでいます。例えば、コミュニティによる地域の実情に応じた生活支援や空き地の活用など、今後の変化に対応したまちづくりに取り組みます。
- ・ まとまりのある市街地であり、日常生活拠点としての都市機能の確保や安心して住まえる環境づくりなどに取り組みます。
- ・ 多様なコミュニティが活動できる場・施設が求められており、既存の公共施設等を利用して活動することができるような環境づくりに取り組みます。

##### 土地利用

- ・ JR 幌向駅周辺では、建物の用途など市街地の土地利用が変化しており、実情に合わせて用途地域の見直しを進めます。
- ・ 岩見沢市の基幹産業である農業の振興を図るとともに、緑の景観を形成する要素として市街地周辺の農地を保全します。

##### 地域交通

- ・ 高齢化が進行している地域であり、公共交通や交通施設にもバリアフリー化が求められています。施設等のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入について、関係機関や交通事業者などに要望や協議を行います。

##### 防災性の向上

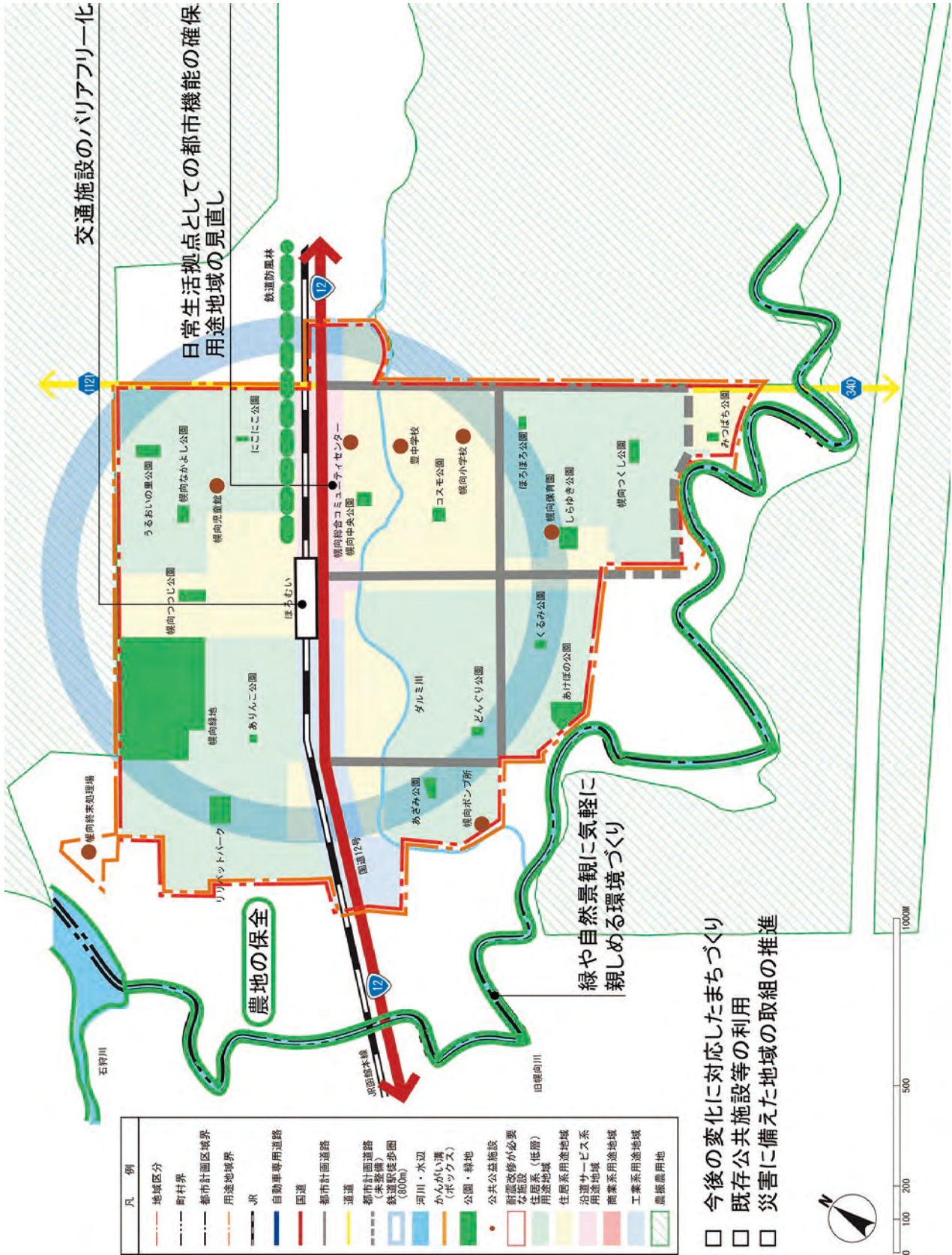
- ・ 昭和 56 年の大雨による浸水害を教訓として、平常時から災害に備えた地域の取組を進めます。

##### 景観の形成

- ・ 幌向地区には、幌向川や石狩川の河畔の自然環境、農地や鉄道防雪林などの緑など、身近に触れ合え、楽しめる緑や自然景観があります。歩きながら緑や自然景観に気軽に親しめる環境づくりに取り組みます。



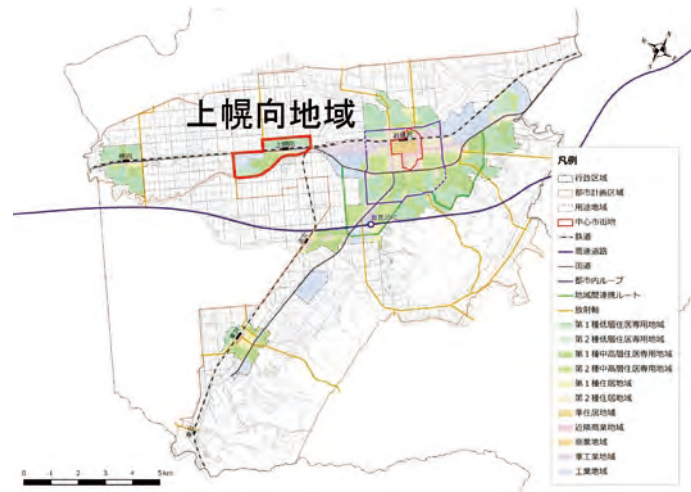
地域まちづくりの方針図



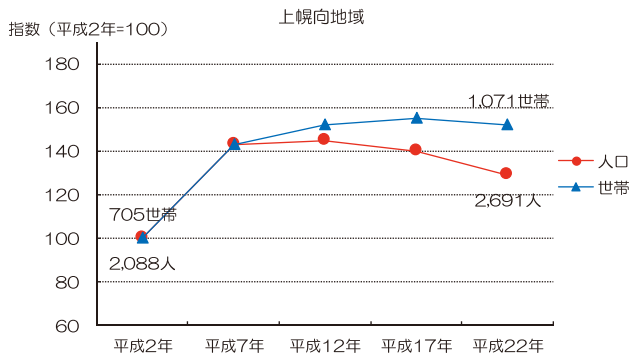
## 2 地域まちづくり構想

### ② 上幌向地域

#### 地域の位置



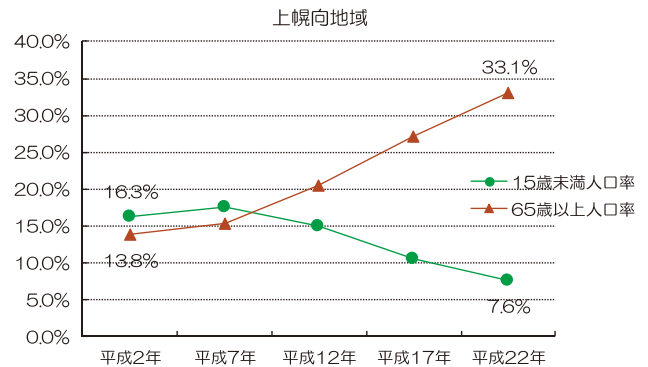
#### 人口・世帯数の推移



人口は、平成7年まで急激に増加し、その後減少に転じています。

世帯数は、平成7年までに急激に増加し、平成17年以降微減となっています。

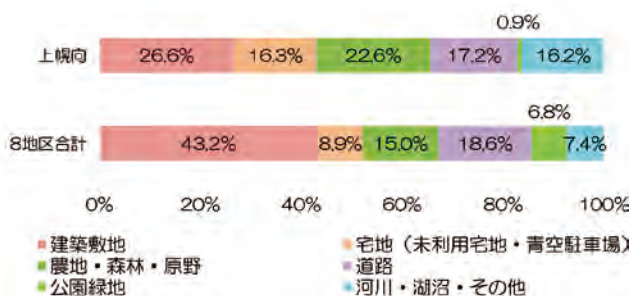
#### 若年人口・老年人口の推移



若年人口の割合は、平成7年以降、減少しており、割合は低い状況となっています。

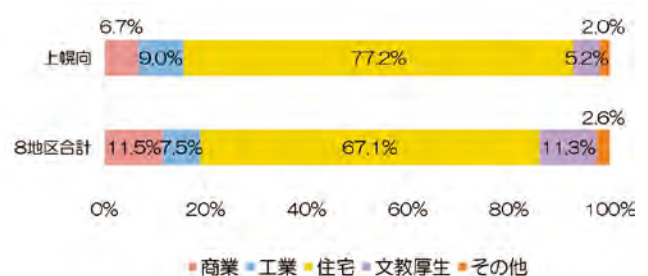
老年人口の割合は、急速に増加しており、高齢化率は市街地内では特に高い状況にあります。

#### 土地利用状況



未利用地、農地等、河川等の割合が多くなっています。

#### 建物用途状況



建物用途では、住宅が多くを占めています。

## 2 地域まちづくり構想

### ② 上幌向地域

#### 地域まちづくりの目標像

#### 人・水・みどり・心豊かなまち

上幌向地区は、南側に流れる利根別川をはじめ、鉄道林や鯉沼などの豊富な自然資源に加え、ボランティア活動や世代間交流などが盛んに行われ、住民同士の結びつきの強い地域であることから、このような目標像を定めます。

#### 地域まちづくりの方針

##### 都市構造・都市空間

- ・今住んでいる人がこれからも住み続けたいと思える、住みやすい地域の実現に取り組みます。
- ・急速に高齢化が進んでいる地域であり、安心して住まえる環境づくりに取り組みます。
- ・活発な町内会活動が行われている地域であり、コミュニティが活動できる場・施設が求められています。既存施設や公共施設等を活用した環境づくりに取り組みます。

##### 土地利用

- ・地域の南側の大規模な未利用地については、地域で不足する雪堆積場として利用します。
- ・こうした未利用地や土地利用が変化している JR 上幌向駅周辺などについては、実情に合わせて用途地域を見直します。
- ・低層住居を専用とした用途地域については、利便性の向上や事業所などの立地による雇用の創出を図るため、住環境を保全しつつ、店舗や事業所など住宅以外の施設が混在することを想定した見直しを検討します。

##### 道路

- ・幹線道路の渋滞の緩和や利便性の向上、災害時の通行の確保などを図るため、他の地域と連絡する道路の整備を検討します。

##### 公園・緑地

- ・身近な公園は、老朽化や草刈りなどの維持管理の負担が問題となっており、公園の遊具や施設など機能の見直しや集約化により、個性や魅力のある公園の整備や維持管理の負担の軽減、公園を利用した住環境の向上などを図ります。

##### 防災性の向上

- ・昭和 56 年の大雨による浸水害を教訓として、平常時から災害に備えた地域の取組を進めます。

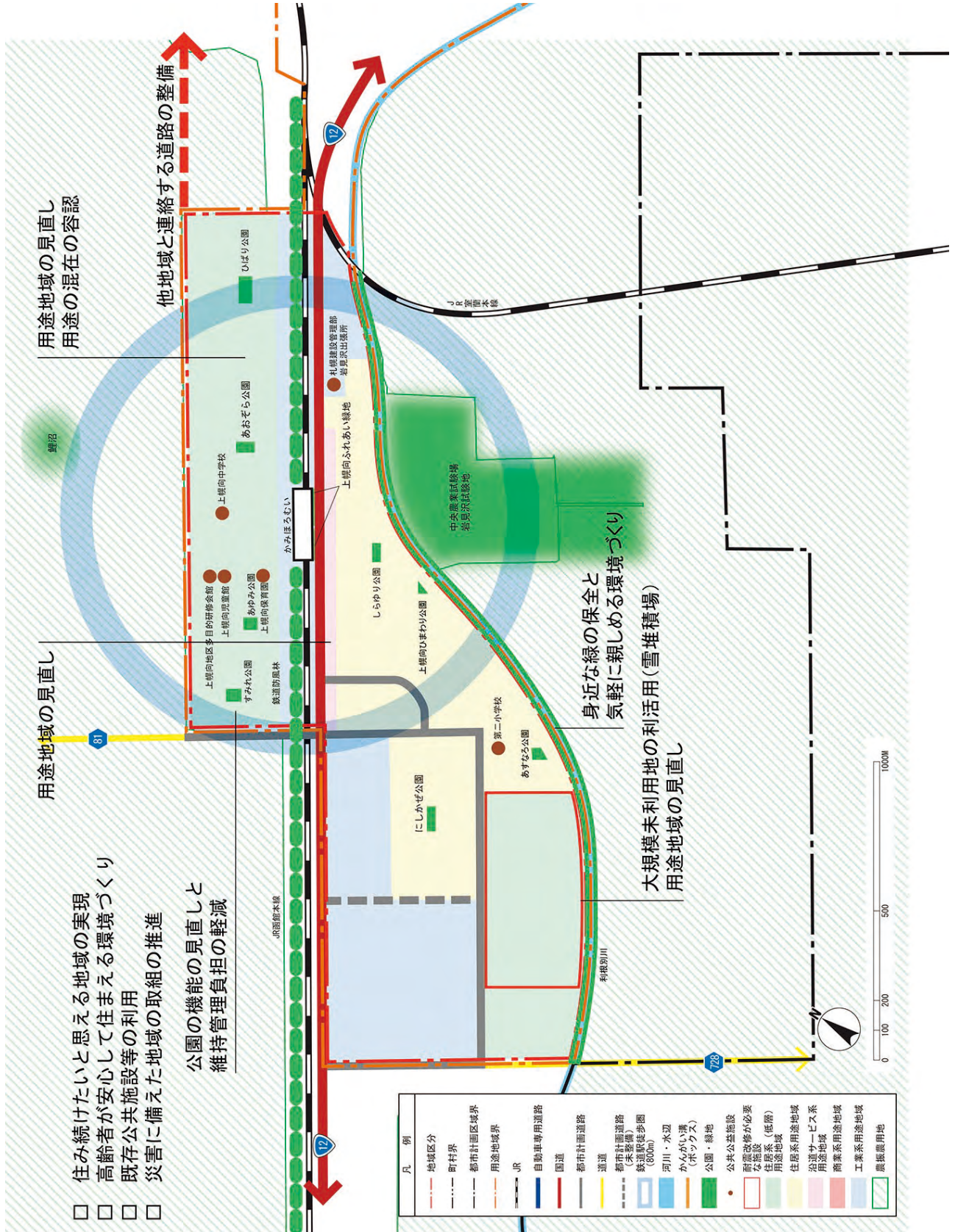
##### 景観の形成

- ・鯉沼や利根別川河畔、鉄道防雪林をはじめ、地区の北側と南側には中央農業試験場岩見沢試験地の圃場を含む豊かな農地が広がっています。身近な緑を保全するとともに、気軽に親しめる環境づくりに取り組みます。





## 地域まちづくりの方針図

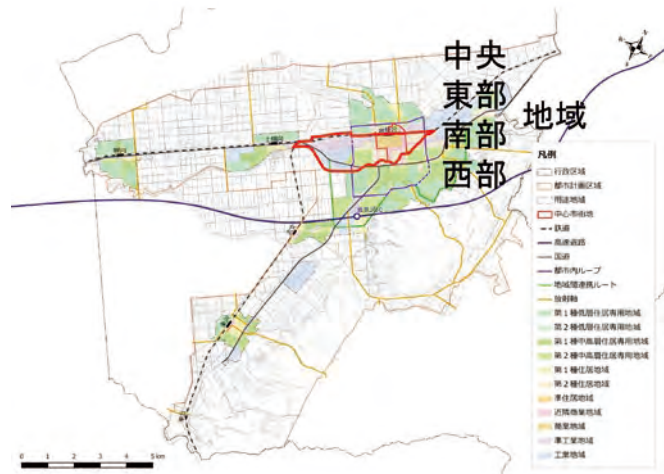


- 住み続けたいと思える地域の実現
- 高齢者が安心して住まえる環境づくり
- 既存公共施設等の利用
- 災害に備えた地域の取組の推進

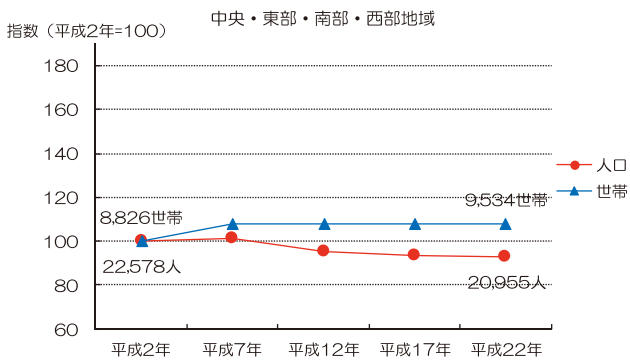
## 2 地域まちづくり構想

### ③ 中央・東部・南部・西部地域

#### 地域の位置

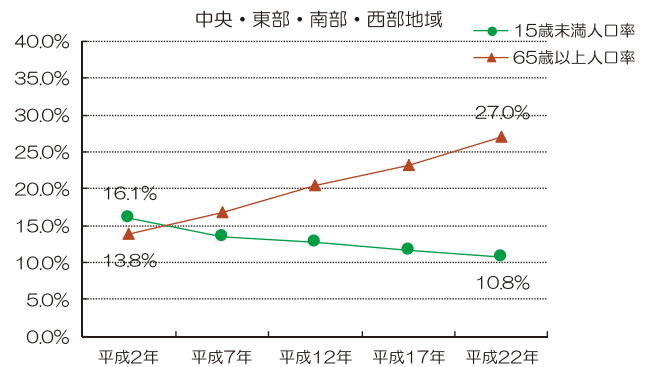


#### 人口・世帯数の推移



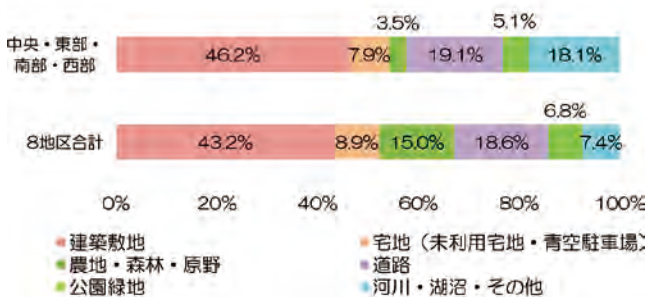
人口は、減少傾向にありましたが、平成12年以降ほぼ横ばいになっています。  
世帯数は、横ばいとなっています。

#### 若年人口・老年人口の推移



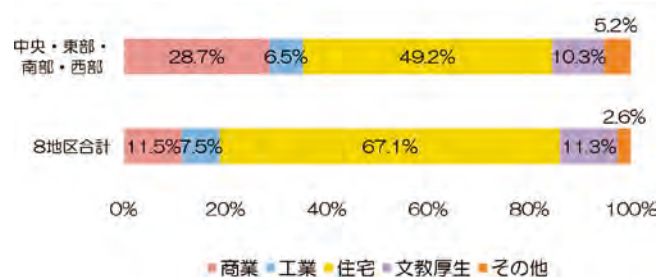
若年人口の割合は、徐々に減少しています。老年人口の割合は、一定の割合で増加しており、高齢化率は他地区と比較して高い状況にあります。

#### 土地利用状況



農地等が少なく、河川等が多い土地利用となっています。

#### 建物用途状況



中心市街地を含んでおり、商業・業務系建築物の割合が多くなっています。





## 2 地域まちづくり構想

### ③ 中央・東部・南部・西部地域

#### 地域まちづくりの目標像

##### コンパクトで住みよいまちなかづくり

JR 岩見沢駅を中心とするまちなかは、市の経済・文化を支える地域であり、商業や交通、市民の活動拠点としての利便性を生かして、空き地、空き家などの有効活用を図りながら、高齢者から若者までが安全に安心して暮らせるコンパクトで住みやすいまちなかとなるよう、賑わいと交流を創出することを目標とします。

#### 地域まちづくりの方針

##### 都市構造・都市空間

- ・ JR 岩見沢駅など、岩見沢の顔となる地域であり、バラや緑の街並みなどまちの魅力を伝えるまちづくりに取り組みます。
- ・ 中心市街地については、岩見沢市中心市街地活性化基本計画に基づき、居住人口の確保やまちなかを回遊する人の増加、雇用の創出に取り組みます。
- ・ 中心市街地にある「であえーる」に子育て支援施設として、こども・子育てひろば「えみふる」を開設するなど、まちなかでの子育て支援の環境づくりに取り組みます。

##### 土地利用

- ・ 土地利用が変化している地域や、道路の整備などにより沿道の土地利用の変化が見込まれる地域については、実情を踏まえて用途地域の見直しを進めます。
- ・ 公営住宅の整備や民間住宅の誘導など、まちなかでの居住人口の確保に取り組みます。
- ・ 市街地で増加している空き地や空き家、公共施設を含む空き施設の活用を図り、都市の利便性の向上や住みやすい環境づくりに取り組みます。

##### 道路

- ・ 鉄道南北の市街地を結び、都市内ループ道路を構成する西 20 丁目通の整備に取り組みます。

##### 公園・緑地

- ・ 駅東市民広場など、中心市街地にある公園や広場については、まちなかのまちづくりや賑わいづくりに活用します。

##### その他の都市施設

- ・ 地震に対する耐震性が低いと診断された中央小学校については、移転建替を進めます。

##### 景観の形成

- ・ 住んでいる人が気持ちよく暮らせたり、外から訪れる人にとっての街の魅力が高まったりするよう、公園・緑地や街路樹だけでなく、住宅地の庭先や商店街の店先の緑などをつないで、まちなかでの緑の街並み景観を形成します。
- ・ JR 岩見沢駅からいわみざわ公園・バラ園に至る駅前通は、市民ボランティアなどの協力を得ながら、沿道でのバラの植栽や育成など「バラのまち」らしい街並みづくりに取り組みます。

地域まちづくりの方針図

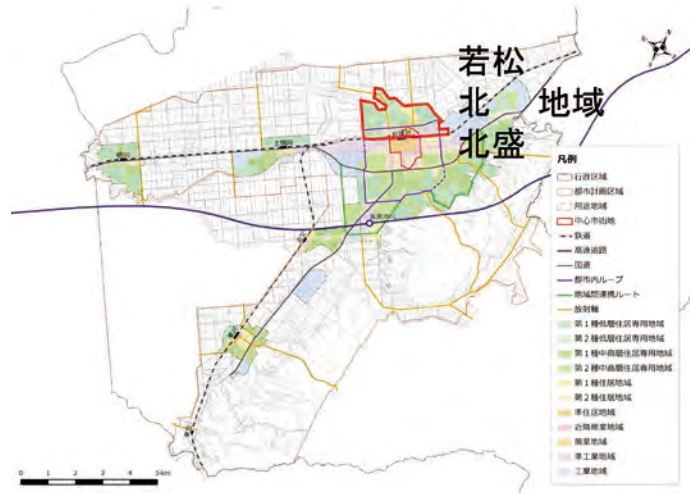




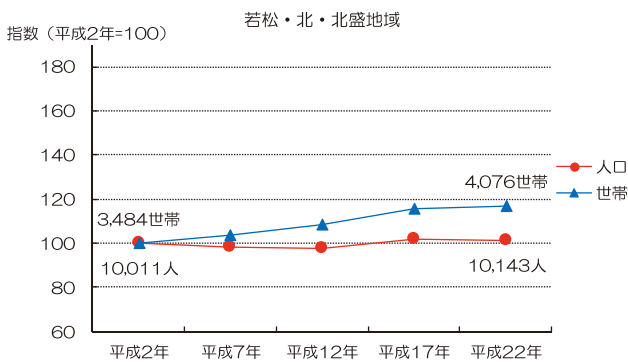
## 2 地域まちづくり構想

### ④ 若松・北・北盛地域

#### 地域の位置

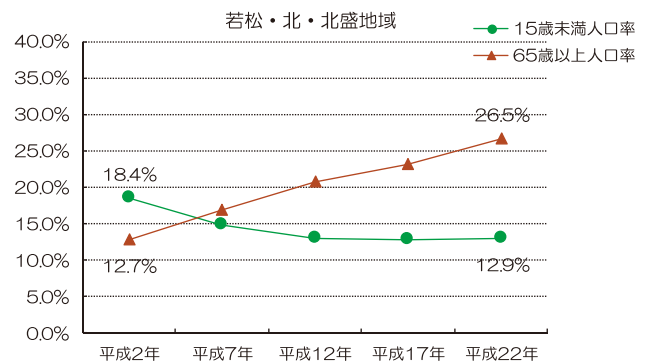


#### 人口・世帯数の推移



人口は、ほぼ横ばいとなっています。  
世帯数は、微増する傾向にあります。

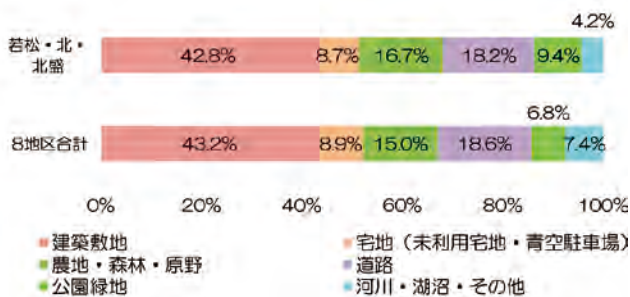
#### 若年人口・老年人口の推移



若年人口の割合は、減少からほぼ横ばいの傾向に推移しつつあります。割合は他地区と比較して高くなっています。

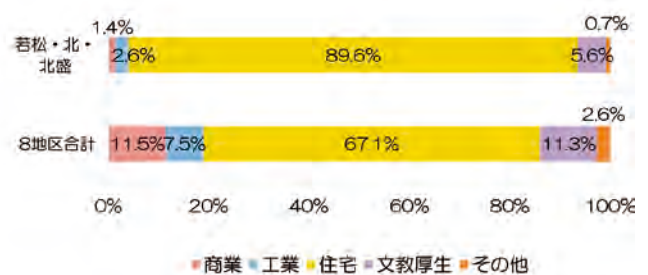
老年人口の割合は、一定の割合で増加しています。

#### 土地利用状況



8地区の平均とほぼ同じ土地利用となっています。  
公園緑地がやや多くなっています。

#### 建物用途状況



建物用途では、住宅の割合がほとんどを占めています。

## 2 地域まちづくり構想

### ④ 若松・北・北盛地域

#### 地域まちづくりの目標像

##### 住みよい未来を拓く 北地域

JR 岩見沢駅の北側の地域として、鉄道の歴史・文化が残るレールセンター等の資源があるとともに、幾春別川と河川沿いのリバーパーク、北3条通のプラタナス並木等の豊かな自然と緑に恵まれた地域として、これらの資源を有効に活用し、住みよい地域を形成していくことを目標とします。

#### 地域まちづくりの方針

##### 都市構造・都市空間

- ・ 鉄道の南側へのアクセスの確保は課題であり、これまでに JR 岩見沢駅や駅前通りにアクセスする南北自由通路を整備しています。今後は、西20丁目通の整備に取り組み、自動車交通による鉄道南北のアクセスを確保します。

##### 土地利用

- ・ 駅北地区では、平成18年度から土地区画整理事業を実施しており、市営住宅や民間共同住宅などが建っています。今後も、居住人口の増加を目指して、駅北地区における住宅の誘導、土地利用の増進を図ります。
- ・ 地区の周辺には優良な農地が広がっていますが、農地法や都市計画法の制限が比較的緩やかな地域では、農地の保全を図るための取組を検討します。
- ・ 人口の減少や高齢化の進行に伴う空き家の増加が地域においても大きな課題となっており、適切な管理や活用の促進に取り組みます。

##### 地域交通

- ・ 他地域を運行するバス路線との調整などを行いながら、駅南側のバスターミナルや JR との接続、乗り換えに配慮したバス路線網や運行便数の見直しに取り組みます。

##### 道路

- ・ 鉄道南北の市街地を結び、都市内ループ道路を構成する西20丁目通の整備に取り組みます。また、同じく都市内ループ道路を構成する北3条通の交通量の増加が見込まれる場合には、通学路など歩行者の安全確保についても必要な措置を検討します。
- ・ 幹線道路の渋滞の緩和や利便性の向上、災害時の通行の確保などを図るため、他の地域と連絡する道路の整備を検討します。

##### 景観の形成

- ・ 北3条通のプラタナス並木は、岩見沢市を代表する景観資源の一つであり、保全に取り組みます。
- ・ 幾春別川河畔の公園や自然環境など、身近な緑や自然環境が豊富であり、緑や自然環境に気軽に親しめる環境づくりに取り組みます。
- ・ 旧国兼家住宅、岩見沢発祥の地、レールセンターなど歴史的資源が多く残る地域であり、これらの歴史的資源をつなぐ街並み景観の形成に取り組みます。



地域まちづくりの方針図

